

令和3年度 学校評価書

学校名 岐阜市立加納中学校

校長名 七野 武稔

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	コミュニティ・スクールの機能を活かし、保護者・地域住民と協働して、資源回収や地域清掃を行う。 PTA活動との連携を図り地域ボランティアを募って、登下校の見守りやいじめ未然防止の意見交流を行うなど実践的に取り組む。	A	登下校時の見守りや白衣修繕、バザー、学校行事の際の運営補助とPTAボランティアとの協働を推進した。また、資源回収や地域清掃においては地域の方とともに活動し、「地域とともにある学校づくり」を進めることができた。	コロナ禍の状況に合わせて、これまで行ってきた学校行事等の実施方法を見直し、最適な方法で進めている。それでいて、新たな地域との協働の取組も進めている。地域としてより一層の協力を考えていきたい。	コミュニティ・スクールの機能を活かし、保護者と地域の方々が学校行事に参加する場を設ける。総合的な学習の時間の発表会、和太鼓発表会を参観したり、地域清掃で協働したり、いじめについて語る会で意見を交流したりするなどを通して、地域とともにある学校づくりを目指す。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	学びをつなぐ生徒の育成を目指し「教科横断的な視点に立った資質・能力」の育成を教育課程全般において実践する。	A	教科横断的な視点をもって資質・能力の育成を図った。「教科・領域関連表」の作成をおとして、それぞれが他の教科の学習内容を理解するとともに、自教科の担う役割について意識することができた。結果として総合的な学習の時間においても、教科等で育成を図った資質・能力を活かす生徒の姿が見られた。	授業では、協同学習において生徒が意欲的に意見を交流し、自分の考えを堂々と話すことができていた。また、タブレットを活用して調べたり、表現したりして意見を交流している。情報活用の技能の高まりが見られる。	学びをつなぐ生徒の育成を目指し「教科横断的な視点に立った資質・能力」を育成する教科指導の実践をすすめる。その中で、各教科で担う役割を考えながら、その教科の特色を生かした授業づくりに取り組む。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	中学校区で小中一貫教育を推進する。本年度は、「学習に向かう態度づくり」に重点を置き、計画的に実践し、その結果を各小学校と交流する。	A	学習規律が課題であったが、聞き方や話し方などの学習規律にかかわる目標を統一して指導を行うことができた。また、中学校の授業を小学生が参観することで、丁寧な学習指導に安心感をもったり、和やかに学び合う学級の雰囲気をつえたりと、中学生の学習姿勢を理想とすることができた。	小学校と中学校が連携を図って、学習取組を進めていることが授業の様子にも表れている。小学校と中学校で共通の学習取組を進めた。次は、中学校において発達段階を考えた発展的な内容を考えるとよい。	中学生の学習姿勢を見たからこそ、小学生に生じた疑問などを交流できる機会を設け、統一感を意識して取り組めるよう進める。また、学力の向上、望ましい人間関係を築く力やレジリエンスの育成に関して、小中で連携できることを考える。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	ICT機器を活用した実践を進め、日常的にオンラインの学習活動ができる環境の整備と教員、生徒のスキルアップに取り組む。 新型コロナウイルス感染予防を踏まえて教育活動を進め、計画的に予算執行を行う。	A	総合的な学習の時間や学校行事等で、異学年の意見交流をオンラインで行うなど、ICT機器を活用してできる交流活動を推進した。オンライン授業の実施については、教員と生徒共に方法に慣れ、更なる工夫を試みることができてきた。	全校集会や異学年の意見交流、講演会などオンラインでの実施を日常的に行うことができていた。学校運営協議会として、地域の人材との交流を同様の方法で協力できるよう考えたい。	ICT機器を活用することで教育的効果の上がる実践を明らかにして、その方法を生徒と共有する。オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容の吟味検討を進めていく。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	生徒と保護者、地域住民参加の防災研修(DIG)を実施し、地域を支える一員として生徒の自覚を高める。 外部講師による情報モラル教育に関わる講演等を実施し、効果的な情報活用とトラブルの未然防止を図る。	B	新型コロナ感染拡大防止のため、地域防災訓練及び防災研修(DIG)の実施ができなかった。地域の危険箇所等を生徒が調査し紹介することで地域を支える一員としての意識を高めることはできた。また、外部講師による情報モラルに関する講話により、生徒自身がSNS等の使用状況を振り返り、生活を見直そうとすることができた。	災害時には、防災学習を生かして、中学生が地域に貢献することを期待している。浸水害等の発生の可能性が高い災害から具体的な想定で学習を進める必要がある。SNSのトラブルの防止は、いじめの未然防止にもつながる。指導の徹底を進めるべきである。	保護者や地域住民とともに防災研修(DIG)を実施するとともに、浸水害想定訓練を実施し、地域の方との連携を図る。 外部講師による情報モラルに関わる講演とともに、定期的にタブレットの適切な使用についての指導を進める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/kanou-j/>